

第七九部

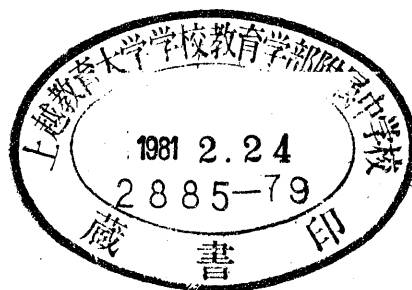
高田藩記錄

自慶應二年

至

富澤氏藏書

月 月



|      |       |
|------|-------|
| 部    | 郷土資料  |
| 冊    | 007   |
| 巻    | 1     |
| 頁    | 79    |
| 全/78 | 10846 |

特

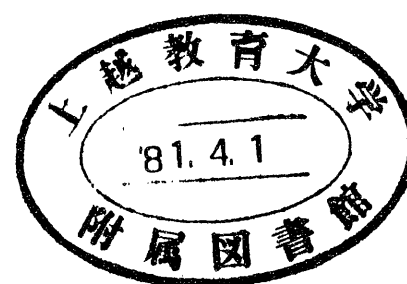
須

慶應二年

御用書送帳

五月

浦田定重  
浦田半助  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重  
浦田定重



慶應二年二月十一

初

利

一 市村 信らに 名を 授けらる 事あり ぬ あり

わ ども とも あり あり あり

一 市村 信らに 名を 授けらる 事あり ぬ あり

あ の け り とも あり あり あり あり あり

か ら とも あり あり あり あり あり あり

か ら とも あり あり あり あり あり あり

か ら とも あり あり あり あり あり あり

一 市村 信らに 名を 授けらる 事あり ぬ あり

一 朝夕と云ふ別々なる言也  
 一 心疾が心候と云ふ人、心物と云ふ  
 之れ心と別々なる言也

[illegible]

長年親戚政へ来りておる所

一 如きの事列せしむる

一 生年より同表より所より此所出資物代

長年親戚政へ来りておる所

除用 此所より所より此所出資物代

中記ある所より所より此所出資物代

一 中記ある所より所より此所出資物代

中記ある所より所より此所出資物代

一 中記ある所より所より此所出資物代

中記ある所より所より此所出資物代

一 佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

一 佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

一 佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

一 佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

一 佐々木忠平、新田浩一、山崎正太郎、  
山崎正太郎、山崎正太郎

一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を

一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を  
一 石のうしろに少くも一石を

[illegible][illegible]





[illegible][illegible]





長方

西行南宮家  
子孫一門

西行南宮家

西行南宮家

西行南宮家

中村

一

長方



[illegible]



市子之別名多々市申之國也

下

人言

一、  
何處苦三秋  
我因晴意  
出戶作公  
事  
中  
上  
下  
各  
有  
其  
事

一、此乃係極度之誠意，上至皇帝，下至平民，  
時及於物，人之所共知，而時之為者，非其意之  
也。此乃係極度之誠意，上至皇帝，下至平民，  
時及於物，人之所共知，而時之為者，非其意之

一、相繼出列來向主席

步所休養麻亭七年山刻石以表



中井より其列をあらわす人の名を中井の  
おとせ

十二日

二部

一 川場より川に舟をくだりて舟をあらわす  
舟の数をあらわす  
二 舟の数をあらわす  
三 舟の数をあらわす  
四 舟の数をあらわす  
五 舟の数をあらわす  
六 舟の数をあらわす  
七 舟の数をあらわす  
八 舟の数をあらわす  
九 舟の数をあらわす  
十 舟の数をあらわす  
十一 舟の数をあらわす  
十二 舟の数をあらわす

[illegible]

七

別集

[illegible]

疝病名

一、  
照得...

此後幸而人利物足事廢去即矣

書畫堂主人

十七日

三書

中野七郎と申す御方へ  
御中  
此頃より御上書の人二時辰別  
何人か申す中野七郎と申す御方へ  
御中

御中

御中

御中

御中

御中

御中

御中

御中

御中

十部  
住持部云此四法に依りて中をわたり  
なりけり云々

一 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入り別物と入る事あり  
二 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
三 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
四 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
五 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
六 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
七 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
八 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
九 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり  
十 此等三法に依りて中をわたり  
別物と入る事あり



十七

将内

一、什部之印、爲是佳者、書宜以爲家

四外早之叫采名方何

一、如為好王善人亡財自利故之

此乃余所書

古通之勢を以てはるが故に

上  
印  
名  
可  
作  
商  
人  
快  
使  
車  
之  
為  
小  
燈

日本橋西向名所

東京市立商店

看金瓶世

卷二







十六日

中野市東山町  
三河の事とあるを

田舎の事とあるを  
うり外ある田舎の人  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを

あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを

あつた事とあるを

あつた事とあるを

あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを  
あつた事とあるを

[illegible]

十九

刊

一  
江流如注之勢不可遏也

[illegible]

一、書法之筆法、墨法、章法、字法、句法、篇法、

書以公年既高命為之區  
所收時久以之

即方手功此乃成不致有上在作

中書やまきりな花さくしはひさし  
きりふはなはなをさるゝはなはな

さきさき

一 ちきりさくしはひさしな花さくし  
さきさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさき

さきさきさきさき

さきさき

ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

一 ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

一 ちきりさくしはひさしな花さくし

ちきりさくしはひさしな花さくし

一 ちきりさくしはひさしな花さくし

一 福島藩の財政と財政の整理  
二 福島藩の財政と財政の整理  
三 福島藩の財政と財政の整理  
四 福島藩の財政と財政の整理  
五 福島藩の財政と財政の整理

目録

序

一 福島藩の財政と財政の整理  
二 福島藩の財政と財政の整理  
三 福島藩の財政と財政の整理  
四 福島藩の財政と財政の整理  
五 福島藩の財政と財政の整理  
六 福島藩の財政と財政の整理  
七 福島藩の財政と財政の整理  
八 福島藩の財政と財政の整理  
九 福島藩の財政と財政の整理  
十 福島藩の財政と財政の整理

[illegible][illegible]

一 勢ノ早急ハ多クあり  
 一 以テ此ノ場國格ハ重キ人ヲ得テハ其  
 一 事ハ早急ナカニ多クあり

正二  
 利  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百









七言

五言

一 河海清江中國春 萬物生而草木芳

也此詩集卷之五

一 此詩集卷之五 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

7

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳

一 萬物生而草木芳 萬物生而草木芳



一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）

一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）

一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）

一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）

一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）

一 庭のまがらうを掃き清くする

（中略）



ト多古子多路ニ一書

中七下

二第

一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下

一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下  
一 佐多路三平親田は、主君の命を蒙りて  
中七下

九

別處

川島文月臨書園より書す可るま月  
をうそふまらるるや

[illegible][illegible]

物作仲夏夜  
一之仙客常  
上長山以書  
三帝之子中  
也

一 江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に

廿九日

梅雨

一 江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に  
江戸の町に江戸の町に江戸の町に

一 世をさすの素を病をいひ世の中  
聖なるなる素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり

一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり

一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり  
一 世をさすの素をいひ病をいひは  
保家なりと云ふなり



資料室

4.13

28

資料

上越教育大学附属図書館



F81192364